

出生順位格差は育休により克服できるのか

February 15, 2024

Abstract

きょうだいの出生順位により、大きな格差が生じることが多くの文献で明らかになっており、経済学、社会学、心理学などさまざまな側面から活発な研究が行われてきている。特に昨今の経済学の文献においては、そのメカニズムに焦点を当てた研究が盛んになっているが、一方で政策的な介入により出生順位により生じる格差にどの程度対処できるかについてはあまり議論が行われてこなかった。したがって本稿では米国の全国縦断調査（National Longitudinal Study Children: NLSY-C）のデータを用い、母親の育児休業（以下「育休」）の取得が、テストスコアなどの子供のアウトカムにおける出生順位格差に与える影響を検証した。分析の結果、きょうだいの出生順位は母親が就労している家庭においても依然として先行研究と同様に格差を生んでおり、育休の取得はこの出生順位の格差を軽減する可能性があることが明らかになった。これらの結果は、これまでの文献で指摘されてきた親の時間投資に関するメカニズムを支持するだけでなく、出生順位格差が政策的介入によって対処可能な問題であることを示唆するものであった。

Keyword : Birth order, Parental leave, Maternity leave